

# 保育士・幼稚園教諭および小学校教員養成課程におけるピアノ学習のあり方

## －「音楽Ⅰ」受講生のアンケート調査から見えてきた課題と展望－

### How Piano Learning is Used in Education Courses for Childcare, Kindergarten and Elementary School Teachers

#### －Issues and Perspectives Arising from the “Music I” Student Survey Questionnaire－

高 奈 奈

#### 要 旨

本稿では、本学の選択必修科目である「音楽Ⅰ」受講生のアンケート調査結果をもとに、保育士・幼稚園教諭および小学校教員養成課程では、どのようなピアノ学習が必要であるかについて述べている。現行のピアノ学習のためのカリキュラムの課題と、今後求められているピアノ学習のあり方を探究する。

キーワード：ピアノ学習 苦手意識 音楽表現

#### はじめに

保育士・幼稚園教諭および小学校教員採用試験では、多くの自治体が一次試験に音楽の筆記試験、二次試験に音楽の実技試験を取り入れている。私立の保育園・幼稚園の採用試験においても、ピアノの自由曲演奏や子どもの歌の弾き歌いを取り入れている。また、実際に保育・教育を行う際、子どもの豊かな表現力を育てるために、ピアノをはじめとする楽器の演奏技術や歌う技術が必要とされている。

本学では、器楽および声楽の技術を身に付けるための科目を1～3年次生まで履修できるようにカリキュラムを作成している。カリキュラムと講義の概要は以下の通りである。

「音楽Ⅰ」…ピアノの基礎的な演奏技術の習得、表現活動のためのリズム曲、主要3和音による簡易伴奏法、子どもの歌の伴奏および弾き歌い。

「音楽Ⅱ」…ソルフェージュや音楽理論の基礎、無理のない発声法、子どもの歌、同声二部合唱。

「音楽Ⅲ」…「音楽Ⅰ」の内容を発展させて、教育・保育現場で実践できるピアノ演奏技術の習得。

「音楽Ⅳ」…ソルフェージュや音楽理論の基礎、子どもの歌を様々な表現法で歌う、女声三部合唱。

「ピアノ演奏法」…「音楽Ⅰ」と「音楽Ⅲ」の内容をさらに深めて、豊かな表現力を身につける。

3年間を通じて、ピアノと声楽を中心に演奏技術を学び、様々な曲に触れる機会があるが、採用試験を受ける際に、多くの学生が音楽の実技試験で苦勞をしている。また、科目を履修し

ている学生から「音楽が苦手である」という声をよく耳にする。ピアノの演奏技術に対する不安がつまづきとなり、本来希望する就職先を諦める学生もいるほどである。

なぜ、多くの学生が「音楽＝苦手」という意識を強く持つのだろうか。本稿では、平成29年度春学期開講「音楽Ⅰ」の受講生を対象としたアンケート調査から学生の実態を知り、保育士・幼稚園教諭および小学校教員養成課程における効果的な技術の習得が見られるピアノ学習のあり方を探究したい。

## 1. 「音楽Ⅰ」の概要

「音楽Ⅰ」は、平成29年度本学に入学した1年次生のほぼ全員が履修をしている。15回の講義では、3つのグレードごとに分かれてピアノの集団学習および個人学習を行い、ピアノの基礎的なスキルと保育現場・教育現場で必要とされているピアノ技術の向上を目指す。各グレードの概要は以下の通りである。なお、グレードは、履修学生が自ら選択することができる。

<p>グレードa…ピアノを弾くのは初めて、もしくは少しだけ弾いたことがある履修学生が選択する。15人程度の集団レッスンと個レッスンを組み合わせて、ピアノの基礎的な演奏技術の向上に重点を置く。</p> <p>グレードb…バイエルなどに取り組んだことがあり、少し練習すれば、易しい曲は弾くことができる履修学生が選択する。大学入学前までに身につけたピアノの基礎的な技術をさらに伸ばす。</p> <p>グレードc…ブルグミュラーなどの教則本は、すぐに弾くことができる履修学生が選択する。ピアノ曲をより表現豊かに演奏し、子どもの曲の弾き歌いなど保育と教育に必要な専門的な技術を身につける。</p>
---

## 2. 「音楽Ⅰ」アンケート調査の実施内容

### (1)対象と日時

対象：「音楽Ⅰ」受講生261名

日時：平成29年4月11日 2限～5限

### (2)目的と方法

本アンケートの目的は、大学入学前までの学生の「音楽に対する意識」と「音楽経験」を把握することである。ピアノや声楽に対する苦手意識の有無を問い、それがなぜ生まれるのか解明したい。「音楽Ⅰ」の第一回目の講義で、選択形式のアンケート8問と自由記述による調査を行った。2～5限の各時限にてアンケートを実施し、各グレードの特徴を比較することに重点を置いた。

### (3)アンケート調査集計員

高 奈奈

〈神戸親和女子大学 非常勤講師〉

#### (4)結果と考察

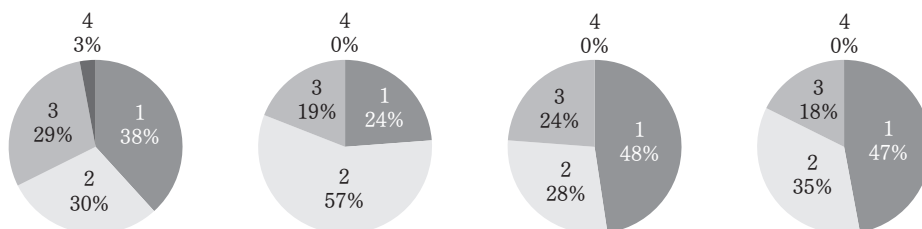
##### ①苦手意識について

苦手意識を持っていることは、技術の習得における初期段階で大きなつまずきとなる可能性がある。学習者がスムーズに学習に入れるよう、指導者はそれを認識し、カリキュラムや指導方法を考える必要がある。そのために、「音楽Ⅰ」の履修者の内、どれだけの学生が苦手意識を持っているのか把握するため、「ピアノを弾くこと」と「歌を歌うこと」の2項目について質問した。

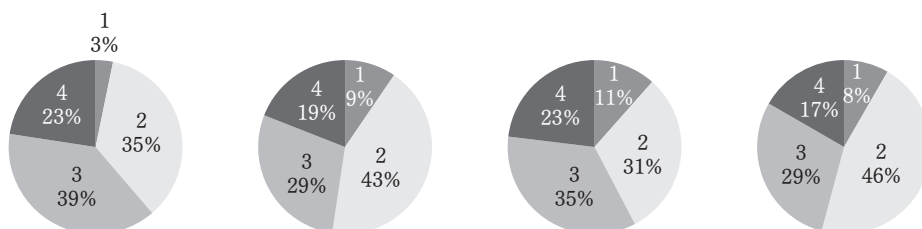
#### A1. ピアノを弾くことに苦手意識を持っていますか。

1. とても持っている
2. やや持っている
3. どちらでもない
4. 持っていない

##### 《グレード a》



##### 《グレード b》



##### 《グレード c》

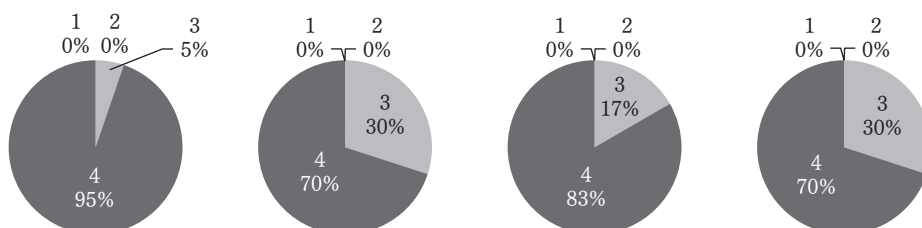


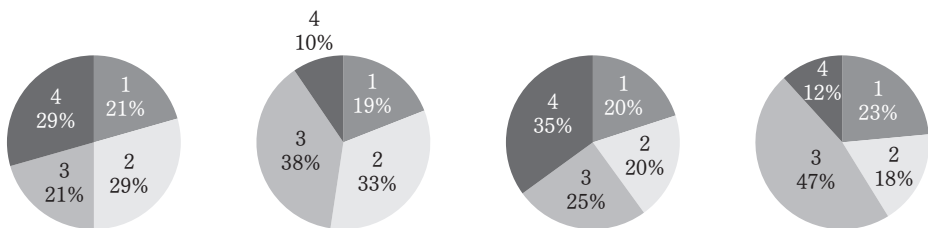
図1 (円グラフは左から2限・3限・4限・5限の結果である)

ピアノを弾くことに対する苦手意識を問う項目については、図1のような結果を得られた。グレードaでは、2～5限全体で約77%（1.とても持っている・2.やや持っているを合わせた数値）の受講生が、ピアノに対する苦手意識を持っていることが分かった。グレードb全体では約47%、グレードcでは苦手意識を持っている受講生は見られなかった。未経験もしくは経験年数が浅いほど、ピアノに対する苦手意識が非常に強くなることが見受けられる。

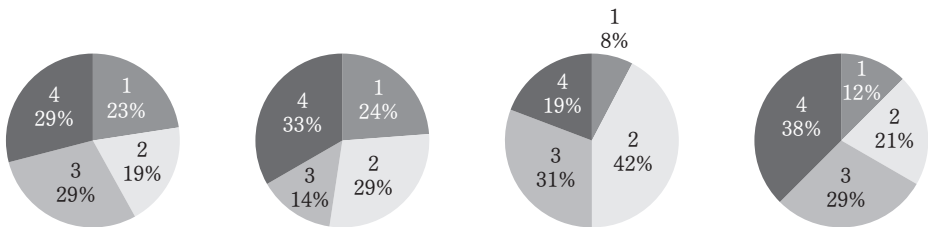
A2. 歌うことに苦手意識を持っていますか。

1. とても持っている      2. やや持っている  
3. どちらでもない      4. 持っていない

《グレードa》



《グレードb》



《グレードc》

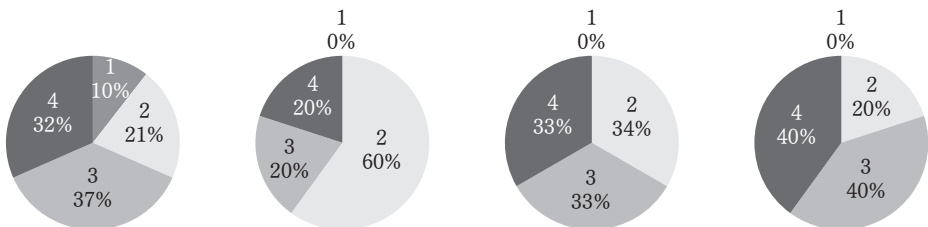


図2（円グラフは左から2限・3限・4限・5限の結果である）

歌うことに対する苦手意識を問う項目については、図2のような結果を得られた。グレードaでは、2～5限全体で約46%の受講生が、歌うことに対する苦手意識を持っていることが分かった。グレードb全体では約45%、グレードc全体では36%であった。ピアノを弾くことに対する苦手意識に比べて、グレードによる大きな差が見られなかった。

## ②音楽の経験について

前項で、多くの学生がピアノに対する苦手意識を持っていることが明らかになったが、苦手意識をもつ要因が、学習経験がなく先入観やイメージによるものなのか、これまでの学習経験の中で培われたものなのかを明らかにしたい。履修学生の大学入学前のピアノ学習経験の有無、学習期間、学習内容、ピアノ以外の楽器の演奏経験について調査した。

### A 3. 大学入学前にピアノを学習したことはありますか。

1. ある    2. ない

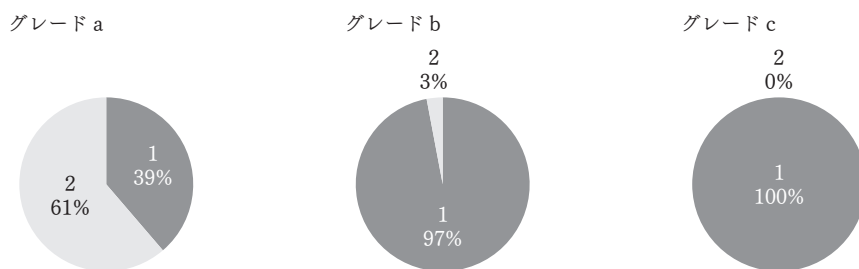


図 3

グレード a の39%、グレード b の97%、グレード c の100%が大学入学前にピアノを習った経験があることが分かった。(図 3)

ベネッセ教育総合研究所の「第 5 回学習基本調査」(小学 5 年生対象)における女子の習い事ランキングによると、1990～2006年までの間、音楽に関する習い事が常に 1 位となっていることから分かるように、ピアノをはじめとする音楽に関する学習は、幼児期・学童期に多くの子どもたちが経験している。「音楽 I」の履修学生においては、履修学生全体の約79%がピアノの学習経験があると答えた。

この結果により、ピアノに対する苦手意識は、これまでの学習経験の中で培われてきたものと考えられる。

### A 4. A 3 であると答えた人は、どのくらいの期間習っていましたか。

1. 6ヶ月未満    2. 6ヶ月～1年  
3. 1～2年    4. 3～5年  
5. 5～10年    6. 10年以上

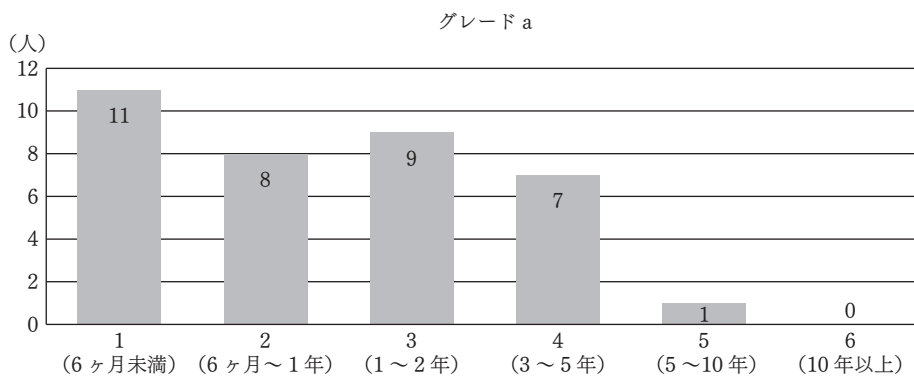


図 4

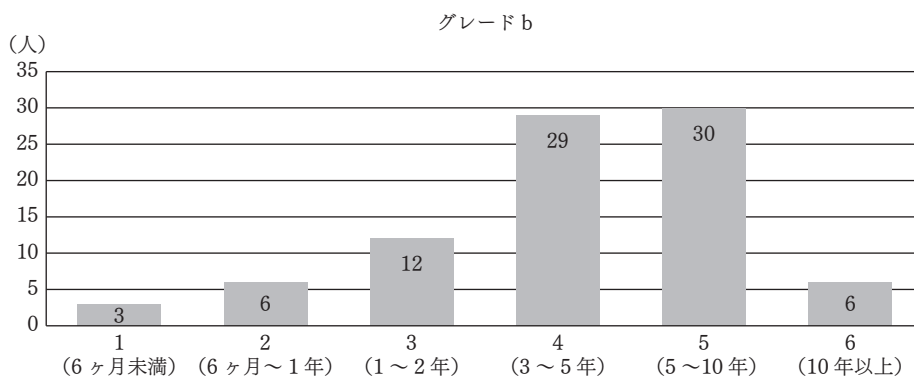


図 5

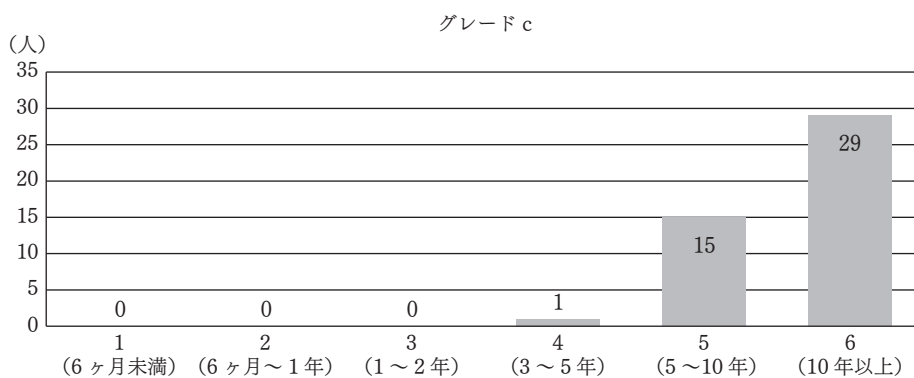


図 6

ピアノ学習の期間に関して、図4～6のような結果が得られた。グレード a においては、ほとんどの学生が5年間以下の学習経験であることが分かった。6ヶ月未満の学生も多く見られるが、本学の児童教育学科に入学が決まり、将来保育士・幼稚園教諭および小学校教員になるための準備としてピアノを習い始めた学生に該当する。グレード b においては、3～10年間

の学習経験が最も多かった。幼児期・学童期に習い事としてピアノを始め、中学進学や高校進学を機に辞めるケースが多く見られた。グレードcにおいては、10年以上学習を継続した学生が最も多かった。

A 5. A 3であると答えた人は、どのような教則本やどの作曲家の作品に取り組んだことがありますか。(複数回答可)

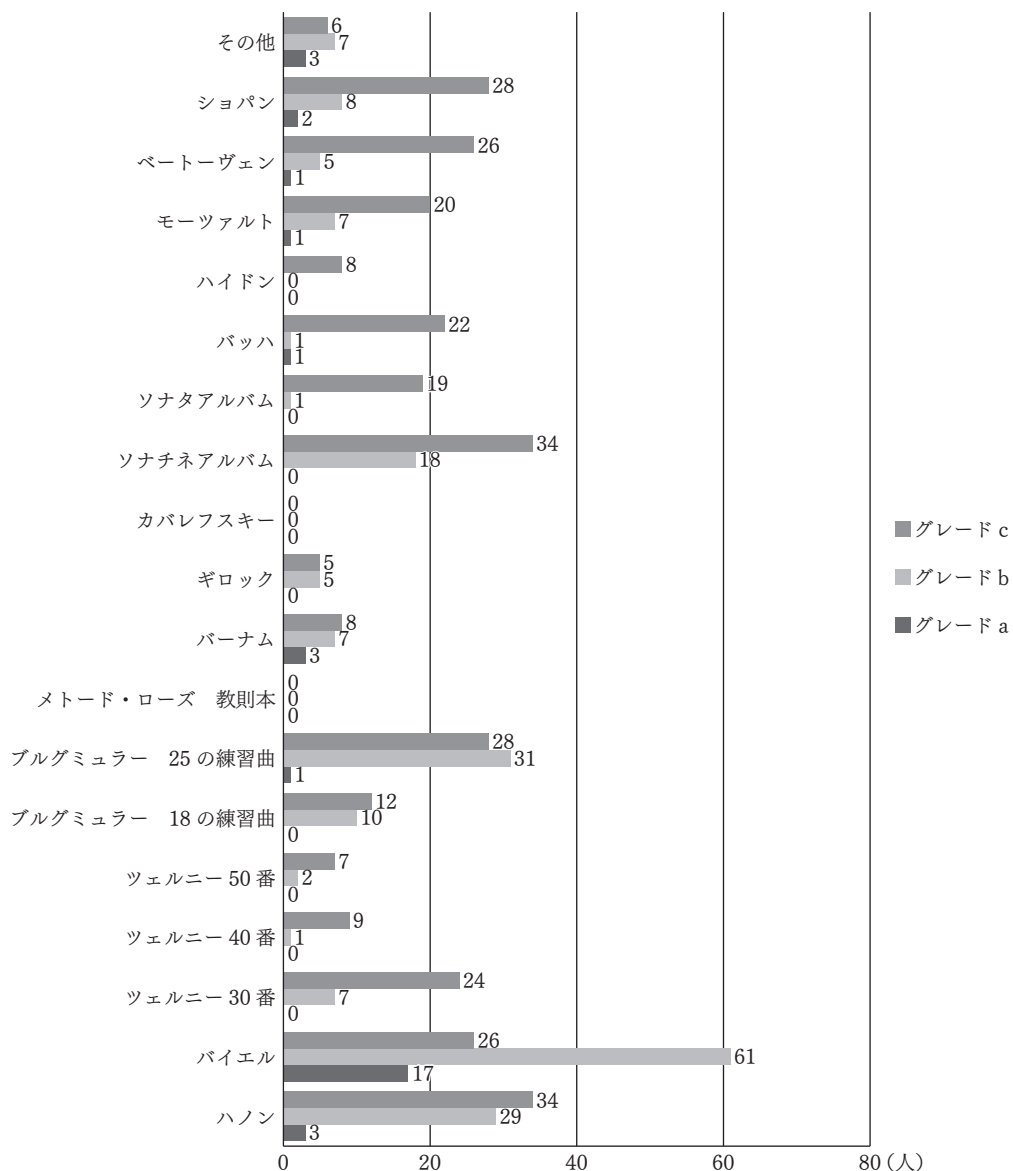


図 7

ピアノの学習内容について、図7のような結果が得られた。グレードaに関しては、学習年数が少ないが故に、取り組んだ教則本や楽曲が少ない。グレードa,b共に「バイエル」に取り組んだ学生が多く見られるが、「バイエル」はあくまでも基礎的な技術の習得を目的としているため、ピアノを弾く楽しみは感じられにくい。それに対し、グレードcではソナチネやソナタ、ショパンやベートーヴェンなど有名な作曲家の作品に取り組んだ学生が多く見られた。これらの曲はピアノ作品としても優れており、完成までの過程に苦勞を感じることはあるが、ピアノを弾く喜びを感じることができる。

グレードa,b共にツェルニー30番、40番、50番に取り組んだ学生が少ない。ツェルニーは、ピアノを自由に演奏するために必要となる多様なピアノ演奏技術を習得するのに効果的な教則本であり、反復練習することで指の筋力を鍛えることができる。また、グレードaの履修学生の多くが、指の運動を目的とする「ハノン」にも取り組んでいない。ピアノを演奏する際に必要となる、基本的な指の筋力を身につけずに楽曲に取り組むことで、うまく演奏できず、フラストレーションが溜まり、苦手意識が芽生えることに繋がると考えられる。

**A 6. これまでに、部活動や習い事でピアノ以外の楽器を演奏したことがありますか。**

1. ある    2. ない

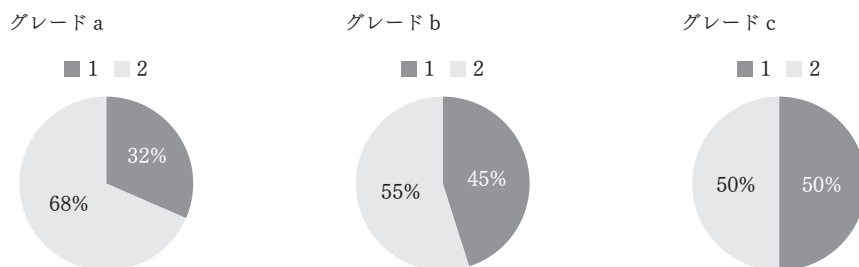


図 8

**A 7. A 6であると答えた人はどのような楽器を演奏したことがありますか。(複数回答可)**

グレード	a	b	c	全体
ピッコロ	0	2	0	2
フルート	0	4	0	4
オーボエ	0	1	0	1
クラリネット	4	8	7	19
ファゴット	0	1	0	1
サクソ	2	5	3	10
トランペット	2	4	6	12
ホルン	1	4	5	10



トロンボーン	5	6	5	16
ユーフォニウム	5	0	0	5
チューバ	0	0	1	1
ヴァイオリン	0	1	1	2
チェロ	0	0	1	1
コントラバス	1	0	1	2
ギター	6	18	6	30
マリンバ	1	3	2	6
その他	9	13	3	25

(単位：人数)

図9

ピアノ以外の楽器の経験について問う項目では、図8・9のような結果が得られた。ピアノ以外の楽器の経験値もグレードaの学生が32%と一番少ないことが分かった。ピアノ以外の楽器は単旋律で演奏することが多く、両手で複数のパートを演奏するピアノとは演奏技術は異なるが、読譜力や音楽理論・楽典の基礎知識を身につけることができる。全グレードを通じて学習経験が多かったクラリネット（19人）やトランペット（12人）は、ト音記号のメロディーを演奏することが多いため、ピアノの主旋律を演奏する技術に繋がる。

また、管楽器を演奏する際は呼吸法が重要となるため、学習の経験がある場合、無理なく歌を歌うことができる。呼吸法に関しては、全ての演奏技術に共通するため、大学入学前にいずれの楽器にせよ学習経験があることは、ピアノの演奏技術の向上を助けることになる。

全体の中で一番学習経験が多かったのがギター（30人）であったが、ギターはコード進行を学習するため、その経験は、子どもの歌の主要3和音による簡易伴奏法に生かすことができる。指導者は、これらのことを念頭に置き、ピアノ学習の内容や指導法を考えることで、履修学生のピアノ以外の学習経験とピアノの学習を繋げていくべきである。

### ③ピアノ学習の存在意義について

最後に、「音楽I」の履修学生はどのような目的意識を持って、ピアノの学習に取り組んでいるのかを明らかにしたい。履修理由と自由記述からそれらを読み取ることとする。

#### A 8. 「音楽I」を履修した理由を下から選んでください。(複数回答可)

1. ピアノの技術向上
2. 幼稚園教諭採用試験対策のため
3. 保育士採用試験対策のため
4. 小学校教員採用試験対策のため
5. ピアノを弾くのが好き
6. 友達が履修するから
7. 時間割の構成上時間帯が良かった
8. 教育実習の準備
9. 保育実習の準備

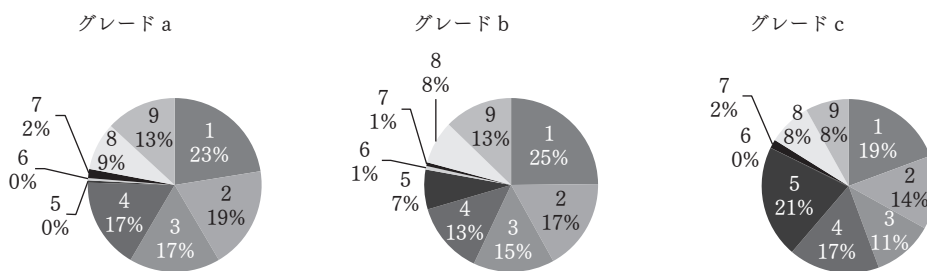


図10

「音楽Ⅰ」の履修理由に関して、図10のような結果が得られた。グレードa.b共に一番多かったのは「1. ピアノ技術の向上」で、グレードaは23%、グレードbは25%の履修学生がピアノの技術習得を一番の目的としていることが分かった。それに対し、グレードcで一番多かった履修理由は、「5. ピアノを弾くのが好き」(21%)であった。この選択肢に関しては、グレードaは0%、グレードbは7%と大きな差があった。前項でも述べたが、ピアノを楽しみながら弾く、という点に置いて大きな違いが見られる。

グレードa.bの履修学生は、ピアノの学習を好んで主体的に取り組んでいるのではなく、採用試験対策や保育・教育の現場での必要性を感じて、義務として履修しているように見受けられる。次に示す自由記述においても、グレードによって大きな差が見られた。グレード別に「不安的要素」と「期待的要素」と「現状」に分類してまとめた。

#### グレード a

##### 不安的要素

- どのように練習すれば良いかわからない。
- 全くピアノを習ったことがなく、楽譜が読めないため、不安。
- 今までピアノを習ったことがないので、採用試験を受けるために必要な実力がつけられるかとても不安。
- 楽譜をすらすら読めるようになるか不安。
- 音楽全般に苦手意識がある。
- バイエル70番まではいったが苦手。
- 不器用なので、両手で弾けるようになるか不安。
- リズム感がない上にピアノの経験がなく、歌うのも苦手で、不安だけである。
- 右手と左手の違った動きをするのが苦手で、弾ける自信がない。
- ピアノは小学生以来全く弾いていないのですごく不安。
- 習っていた期間が短かったので、新しい曲を演奏するのは不安。
- 読譜ができない、指の位置がわからないなど、授業についていけないか不安。
- クラスで自分がついていけないかが不安。

- ・授業で週1度だけピアノを弾いていただけなので周りの人についていけるか不安。習ったこともない。
- ・ピアノを始めたばかりで、音符の種類など分からないことだらけなので、授業についていけるか不安。
- ・高校の時にソルフェージュの授業を取っていたが、ピアノも童謡くらいしか弾いたことがないので不安である。
- ・楽器をもっていないので、練習時間が確保出来るのか不安。

#### 期待的要素

- ・楽譜を見てすぐに曲が弾けるようになりたい。
- ・やさしい曲を弾けるようになりたい。
- ・特別支援の先生になりたいので、免許がとれるぐらいの力をつけたい。
- ・苦手意識をなくして、楽しく弾きたい。
- ・まだバイエルも終わっていないので少し不安だが、技術向上と免許取得の為に頑張りたい。
- ・採用試験の際のピアノをがんばりたい。
- ・歌いながらピアノが弾けるようになりたい。
- ・教員になるための最低限の技術を身につけたい。
- ・小学校教員になるために両手で弾けるようになりたい。
- ・幼稚園教諭採用試験時に向けてピアノの技術を身につけたい。
- ・国家試験（保育士）に合格できるよう確実にスキルを身につけたい。
- ・保育現場で必要な技術を身につけたい。
- ・今まで全く習ったことがないので少し不安だが、簡単な曲が弾けるようになりたい。
- ・楽譜の記号など意味がわからないので、初歩から学びたい。
- ・ピアノを弾いたことが全くないが、精一杯がんばりたい。未知の世界に等しい。
- ・基礎から教えてもらいたい。
- ・弾き歌いまでの技術は身につけたい。
- ・採用試験でピアノの試験があることを知り、電子ピアノを購入した。
- ・他の楽器を経験したこともなく、歌にも自信がないが、音楽Iの授業で、ある程度の技術を身につけたい。
- ・高校三年の授業で少しだけ習ったが、両手で何曲か弾けるようになりたい。
- ・リズムの取り方が苦手なので、教えて欲しい。
- ・読譜力、初見力を身につけたい。

#### 現状

- ・楽譜をスムーズに読めるようになりたい。
- ・ピアノを習ったことがないため、まったく弾けない。

- ・歌を歌うことは好きだが、ピアノは経験がない。
- ・ピアノを弾いたことが無いので、自分のレベルがわからない。
- ・大学入学前に3ヶ月だけ習った。
- ・高校2年生の夏から始めたが、まったく弾けない。
- ・高校3年生の11月から習っているが、まったく弾けない。
- ・高校1年生から始めた。
- ・2ヶ月しか習ったことがないので、全く出来ないに等しい。
- ・小学校6年生まで習っていたが、それ以来全く触っていないので、忘れたことも多い。
- ・小学校2年生から4年生までピアノを習っていた。
- ・小学校4年生から6年生までの2年間だけ習った。
- ・自宅に電子ピアノなどを用意したほうがよいかどうか悩んでいる。
- ・ト音記号は読めるが、ヘ音記号は全く読めない。
- ・楽譜が読めず、拍子のとり方も分からない。
- ・音痴である。
- ・音符を読むのが苦手で、人前で歌うことに慣れていない。

## グレード b

### 不安的要素

- ・授業についていけるか不安である。
- ・ピアノは苦手意識が非常にあって上手になれるのか不安。
- ・エレクトーンの経験しかなく、ピアノに対して不安がある。
- ・ピアノが全然弾けないので不安。
- ・小学校高学年から数年習ったが、あまり触れていないので不安。
- ・高校のときからピアノを始めたので不安である。
- ・グレードが適しているのか不安である。
- ・長い期間ピアノを習っており経験はあるが、技術に不安を持っている。
- ・中学二年まで9年間習ったが、暗譜が苦手で仕上げるのに時間がかかる。
- ・4歳から12歳まで習っていたが、得意ではなかったので、今からでも間に合うのか不安。
- ・リズム感にコンプレックスがある。
- ・指番号がないと弾けないので不安。
- ・和音付けとペダルを使うことがとても苦手。
- ・ヘ音記号を読むのが苦手。
- ・#、bを読むのが苦手である。
- ・歌がとても苦手で、特に高い音が出せないで不安。

- ・6年間ピアノを習っていたが、遊び感覚だったので、今は弾けない。
- ・ブランクがあるので、指が動くか、楽譜が読めるか、課題を弾きこなす事が出来るか不安である。
- ・リズム、音楽記号、音楽用語が理解出来ているのか不安である。
- ・1回聴かないと弾けないので不安である。楽譜を見ただけでは弾けない。
- ・音源を聴かないと弾けない。
- ・経験が浅いので、授業についていけるか不安である。
- ・弾きながら同時に歌うことが不安である。
- ・一定のテンポを保つのが苦手。
- ・歌はお腹から声を出せるように不安である。
- ・手が小さいので不安である。
- ・歌が苦手で、人前で歌うのが好きではないので不安である。

#### 期待的要素

- ・保育園で求められるレベルに達したい。
- ・色々な曲の楽譜を見てすぐ弾けるようになりたい。
- ・他の楽器にも挑戦してみたい。
- ・弾き歌いの技術を身につけたい。
- ・ピアノをもっと上手に弾けるようになりたい。
- ・小学校の先生に必要なレベルまで弾けるようになりたい。
- ・余裕をもってピアノを弾いたり歌ったりできるように頑張りたい。
- ・教師に必要な技術力が欲しい。
- ・実習で困らないようにピアノを弾けるようになりたい。
- ・コードでの伴奏付けや移調が出来るようになりたい。
- ・階名を書かなくても弾けるようになりたい。
- ・スケール、コードネームを身に付けたい。
- ・音を耳から覚えて弾くのではなく、楽譜を見ながら弾けるようになりたい。
- ・保育実習までには簡単な曲でも弾けるようにしたい。
- ・ピアノにすごく苦手意識があるが、子供たちが歌う曲の伴奏はしっかり弾けるようになりたい。
- ・採用試験時に課題曲を出されてもスラスラ弾けるようになりたい。
- ・初見視奏、初見視唱に強くなりたい。
- ・ピアノの技術を向上させたい。
- ・ピアノ、声楽、弾き歌いに自信をつけたい。
- ・難しい曲を弾けるようになりたい。

- ・音痴を直したい。
- ・昔習っていた時は嫌になって辞めたので、嫌にならないように楽しく弾きたい。

#### 現状

- ・4歳から12歳までピアノを習っていたが、今はうまく弾けない。
- ・小学校から高校までエレクトーンを習っていたので、ピアノは1年ほどしか経験がない。
- ・カワイ音楽教室で習っていて、カワイの本しか弾いていないので、バイエルを弾いたことがない。

#### グレードc

##### 不安的要素

- ・ブランクがあるので不安。
- ・ピアノ学習期間は長いですが、楽譜を見て弾くのは苦手である。(真似して弾くのは得意)
- ・弾き歌いができるのか不安である。
- ・ピアノの経験はあるが、レッスンについていけるか不安である。
- ・移調が出来るか不安である。
- ・初見が苦手。

##### 期待的要素

- ・弾き歌い出来るようになりたい。
- ・初見力をつけたい。
- ・講義を受けるのが楽しみで、がんばりたい。
- ・採用試験に役立つ知識、伴奏の技術を身につけたい。
- ・人前で歌うことが苦手だが、教員を目指す上で必要なことなので、この劣等感を克服したい。
- ・ピアノは中学生のころまで習っていたが、その後は独学なので、授業では先生のアドバイスを聞きながら、細かいところまで丁寧に弾けるようになりたい。
- ・高い声を出すのが苦手なので、きれいな声で幅広い音域を歌えるようになりたい。
- ・ピアノの技術を向上させたい
- ・弾き歌いができるようになりたい。
- ・初見や移調に苦手意識があるので、自信をつけられるように頑張りたい。
- ・リズム感や歌の技術を身につけたい。
- ・いろいろな曲をすらすらと弾けるようになりたい。
- ・ヤマハのグレードを取得したい。
- ・立派な先生になれるように頑張りたい。
- ・歌を歌うことが苦手なため、しっかり声を出して歌えるようになりたい。

### 3. ピアノ学習における課題

本稿に示したアンケート調査結果により、ピアノ学習における様々な課題が浮き彫りとなった。本学のピアノ学習の現行のカリキュラムに関する課題は以下の通りである。

- ①大学入学前のピアノ学習の経験の差が大きくなるにもかかわらず、統一されたカリキュラムと学習内容で技術の習得を目指すため、個々の苦手意識やつまずきに対応することができない。
- ②ピアノの基礎を習得する際、バイエルなどの初心者が面白みを感じにくい教則本を使用することにより、学習意欲が湧かず、主体的な学習に発展しない。
- ③指の筋力の鍛錬を行わずに様々な楽曲に取り組もうとするため、練習課程でつまずき、苦手意識が芽生える。
- ④大学入学前に経験したピアノ以外の楽器の学習経験がピアノ技術の習得と結びつかず、表現力と技術の成長に繋がらない。

### 4. 今後の展望

今後は、本稿で明らかになったピアノ学習における課題を踏まえ、学習者が苦手意識を持つことなく主体的にピアノ学習に取り組めるようなカリキュラムを構築したい。

まずは、グレード a におけるピアノの初期段階の学習内容や教則本を見直したい。現行では、バイエル教則本のみを用いているが、学習者が興味・関心を持てるような教材研究を行い、初期段階よりピアノを弾く楽しみを感じられる学習内容を目指す。次に、指導者が、履修学生の大学入学前の音楽学習経験を理解し、大学におけるピアノ学習へと繋げられるよう学習内容と指導法を探究する。最後に、様々な曲に取り組む際、学習者がつまずきを感じにくくするために、練習方法について提示する。

保育・教育の現場において、子どもの豊かな表現を引き出すためには、保育者や教員が豊かな表現力を有する必要がある。ピアノ学習においても、ピアノの面白さを感じ、豊かな表現力を引き出したい。

### 参考文献

- ・文部科学省（2008） 幼稚園指導要領
- ・厚生労働省（2008） 保育所保育指針解説書 フレーベル館
- ・全音楽譜出版社 標準バイエルピアノ教則本
- ・ <http://berd.benesse.jp/koutou/opinion/index2.php?id=5222>